

# ヘルパンギーナが流行しています

## 【概況】

2023年第29週(7月17日~7月23日)の定点あたりの患者報告数<sup>※1</sup>について、横浜市全体は **3.87** で推移しています。

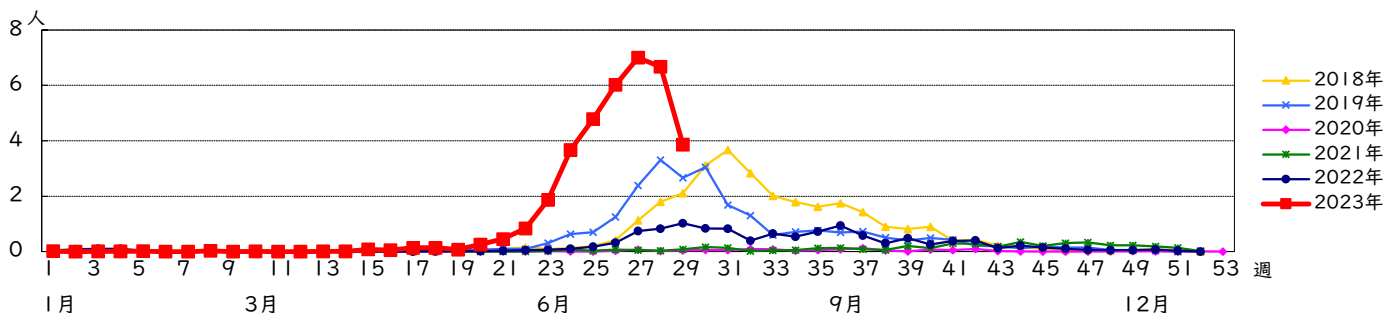
直近5週間の報告患者の年齢構成は1歳17.5%が最も多く、次に2歳16.8%、4歳16.0%となっており、**0~5歳までで全体の84.6%**を占めています。

ヘルパンギーナの原因は主に**コクサッキーA群ウイルス**で、市内の患者からも同様に検出されています。

※1 定点あたりの患者報告数とは、毎週定期的にヘルパンギーナの患者発生状況を報告して下さる小児科定点医療機関(市内94か所)から報告された患者数の平均値です。

## 【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は第20週(0.27)以降増加しはじめ、第26週6.02で警報レベル6.00を上回りました。第27週は7.00でピークを迎え、第28週は6.67、第29週3.87と推移しています。



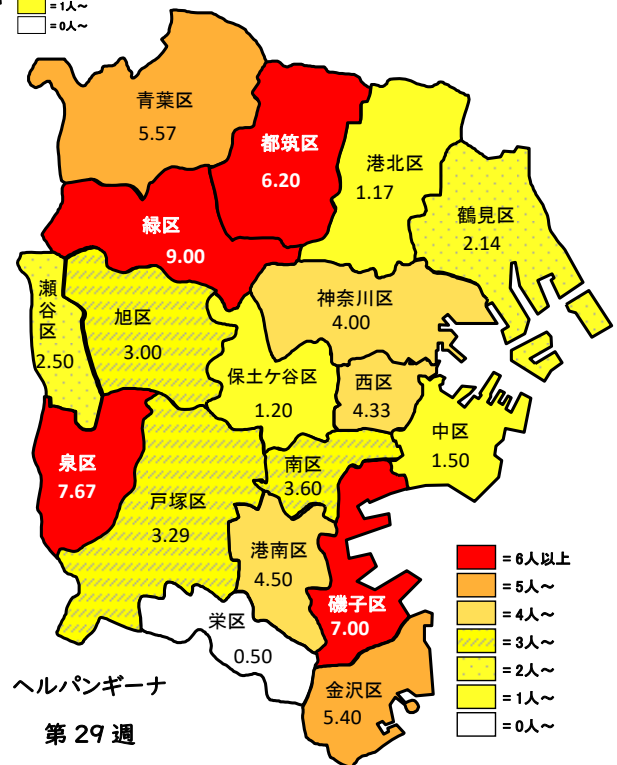
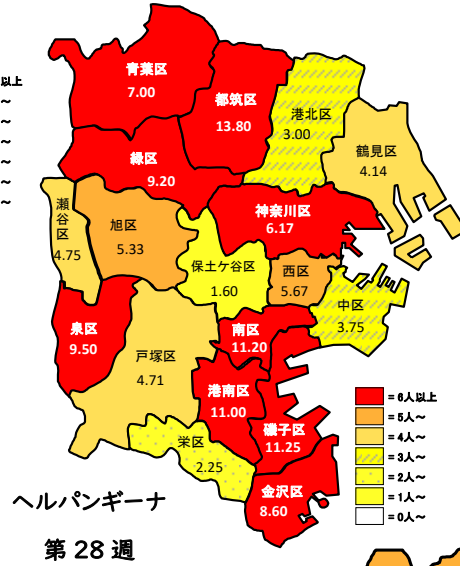
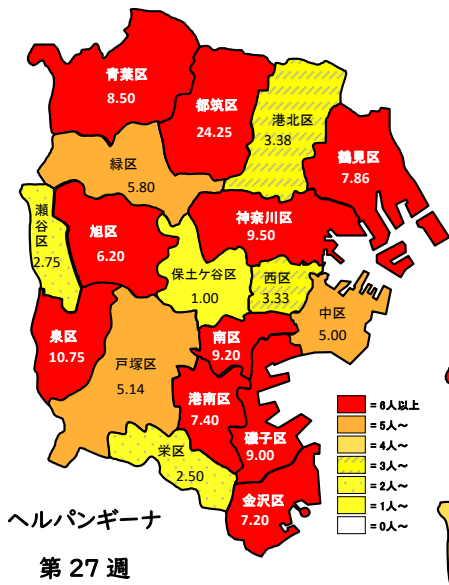
## ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは2~4日の潜伏期間の後、突然の発熱に続いて咽頭痛が出現する感染症です。咽頭粘膜は赤くなり、特にのどの奥に1~2mmの水ぶくれ・潰瘍が出現します。通常は1週間程度で治ります。発熱時に熱性けいれんを起こすことがあります。まれに髄膜炎などの重い合併症が起こる場合もありますので、発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに医療機関に受診しましょう。

感染経路は接触感染・経口感染・飛沫感染で、予防のためには手洗いが大切です。回復後も数週~数か月ほど便からウイルスが排出されるため、おむつ交換後などは、よく手を洗いましょう。

## 【区別流行状況】

第29週では、市内4区で  
流行警報発令基準値6.00以上となっています。



今後は流行状況に応じて、不定期で発行いたします。  
毎週の流行状況は、[横浜市感染症情報センターウェブページ](#)に掲載している  
「最新の感染症発生状況(横浜市内)」の「週報」の「定点情報」をご参照ください。

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
横浜市医療局健康安全課

TEL 045(370)9237  
TEL 045(671)2463